

令和2年4月14日（火）
国土交通省 関東地方整備局
河川部 河川環境課

記者発表資料

**利根川上流域の少雪に伴う水利用への影響に備え、
水の安定供給のための渇水対応行動計画を**拡充・強化****

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が来年夏に延期されることになりましたが、首都圏に水を安定的に供給することは、引き続き重要です。

今冬は、記録的な暖冬・少雪であることを踏まえ、水の安定供給のための渇水対応行動計画の「体制」、「対策」を拡充・強化し、渇水への備えに万全を期すため、第3回東京2020オリンピック・パラリンピック渇水対策協議会を令和2年4月13日に開催しました。

その結果、首都圏水資源統合運用本部の設置、渡良瀬貯水池等の弾力的管理の追加、武蔵水路等の新たな運用などを本行動計画に位置づけることにしました。

今後は、引き続き関係機関が連携・協力し、新たな項目も含め、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて渇水に備えた対応を実施していきます。

※今回の協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、持ち回り開催（書面による議事）とさせていただきます。

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、
都庁記者クラブ、千葉県政記者会、神奈川県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、水資源記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局（TEL）048-601-3151、（FAX）048-600-1379

河川部河川環境課長 赤道正悟（内線3651）、建設専門官 土屋英樹（内線3652）
あかみちしょうご つちやひでき

第3回 東京2020オリンピック・パラリンピック渇水対策協議会

【持ち回り開催（書面による議事）】

議事次第

日時：令和2年4月13日（月）

1. 議 事

- (1) 現在のダム貯水状況、利根川上流域の積雪状況、今後の気象状況について
- (2) 現在行っている行動計画の報告
- (3) 渇水対応行動計画改定

現在のダム貯水状況、利根川上流域の積雪状況、 今後の気象状況について

2020年4月13日

東京2020リハビリテーション・パビリオン・アクア・アリーナ・アリーナ・アリーナ
東京2020リハビリテーション・パビリオン・アクア・アリーナ・アリーナ・アリーナ

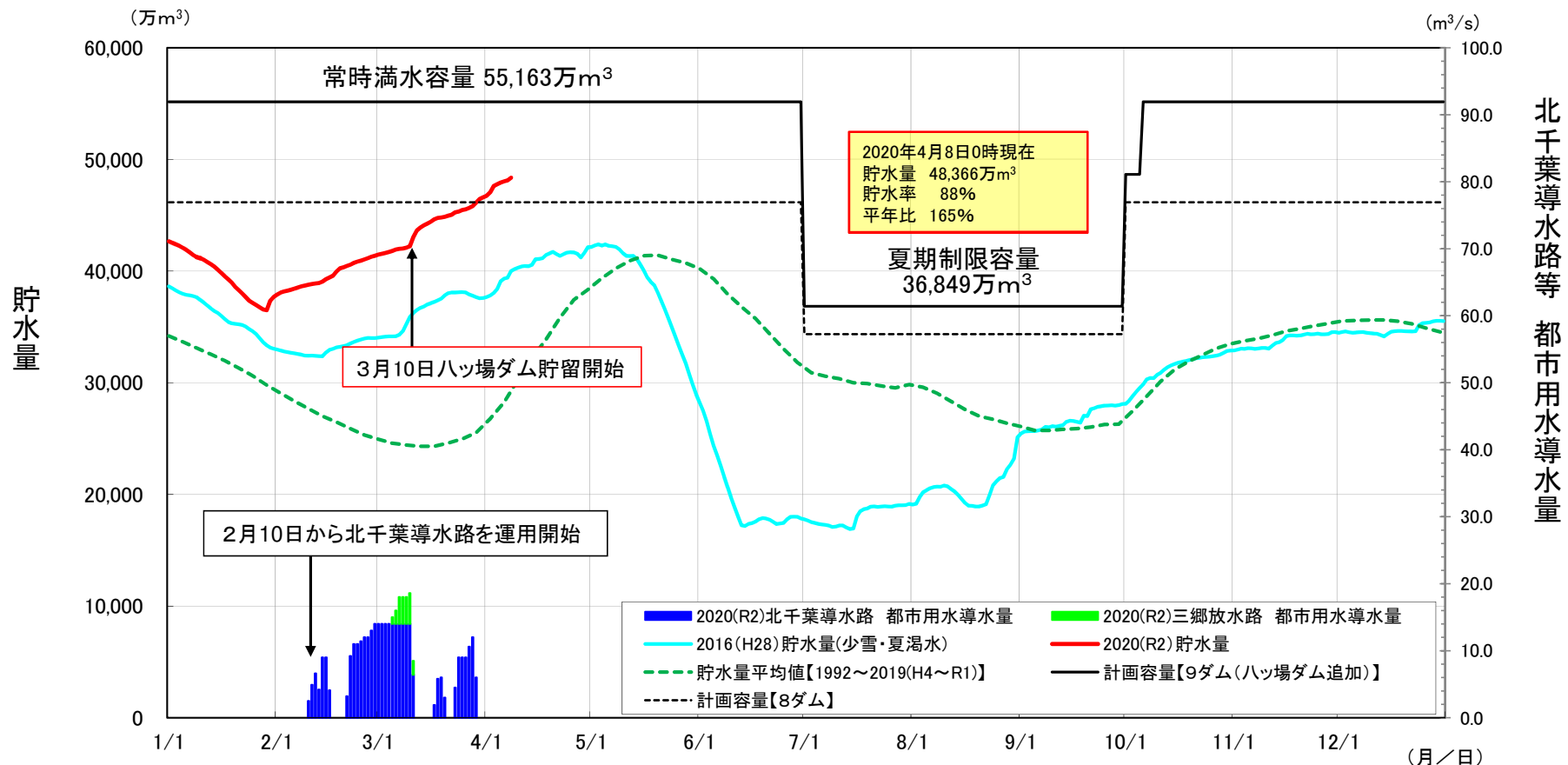
協議会構成員

国土交通省関東地方整備局・経済産業省関東経済産業局・農林水産省関東農政局・（独）水資源機構
東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県・茨城県・群馬県・栃木県

2020年1月からダム補給により貯水量が減少しましたが、北千葉導水路等の運用強化、ハッ場ダムの貯留開始により、4月8日0時現在の利根川上流9ダム合計貯水量は、4億8,366万 m^3 、貯水率88%[平均値の165%(8ダムの平均貯水量との比率)]となっており、8ダム体制となった1992年(平成4年)以降で最大の貯水量となっております。

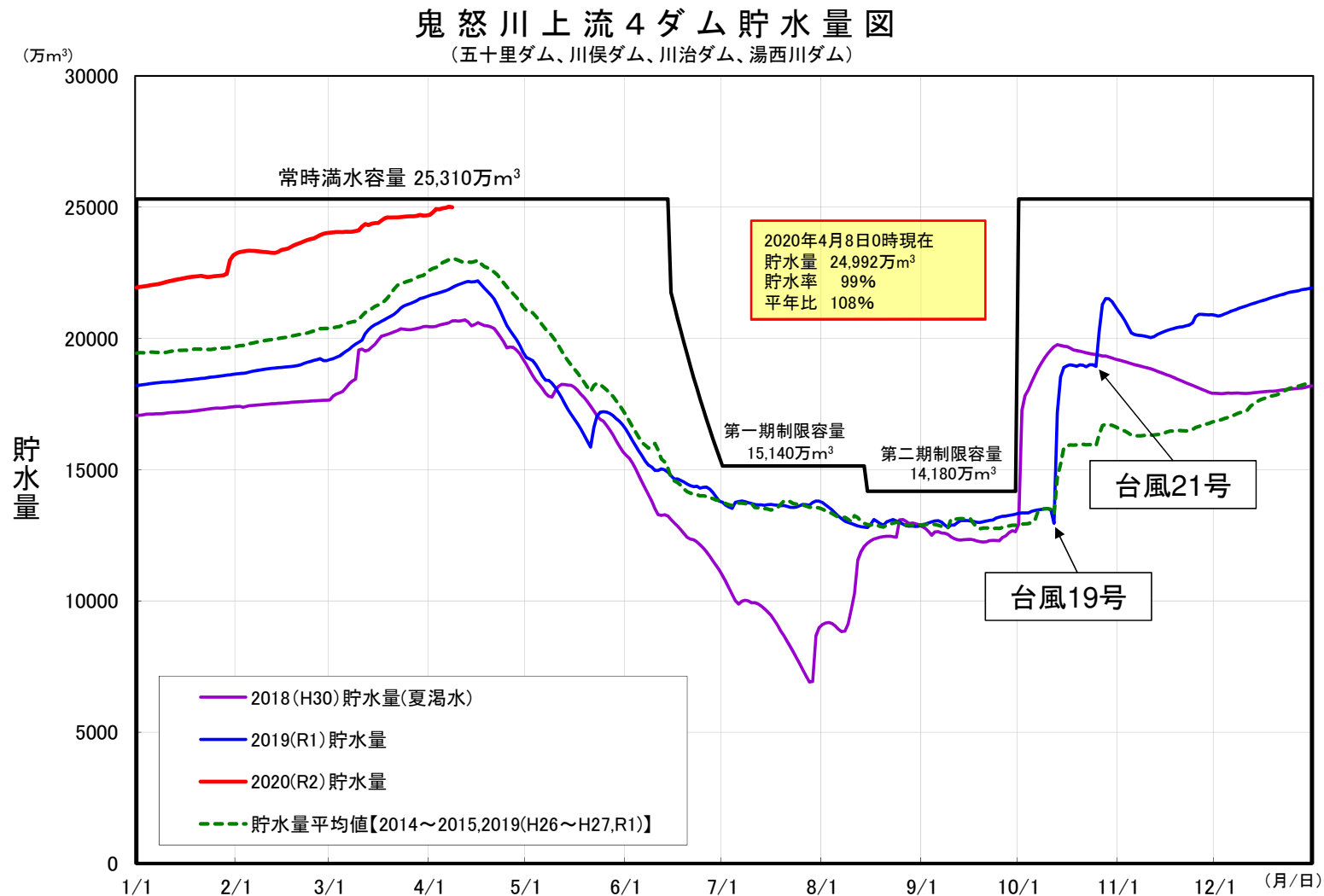
利根川上流9ダム貯水量及び北千葉導水路等都市用水導水量

【矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相模ダム、菌原ダム、草木ダム、下久保ダム、渡良瀬貯水池、ハッ場ダム(4月1日運用開始)】

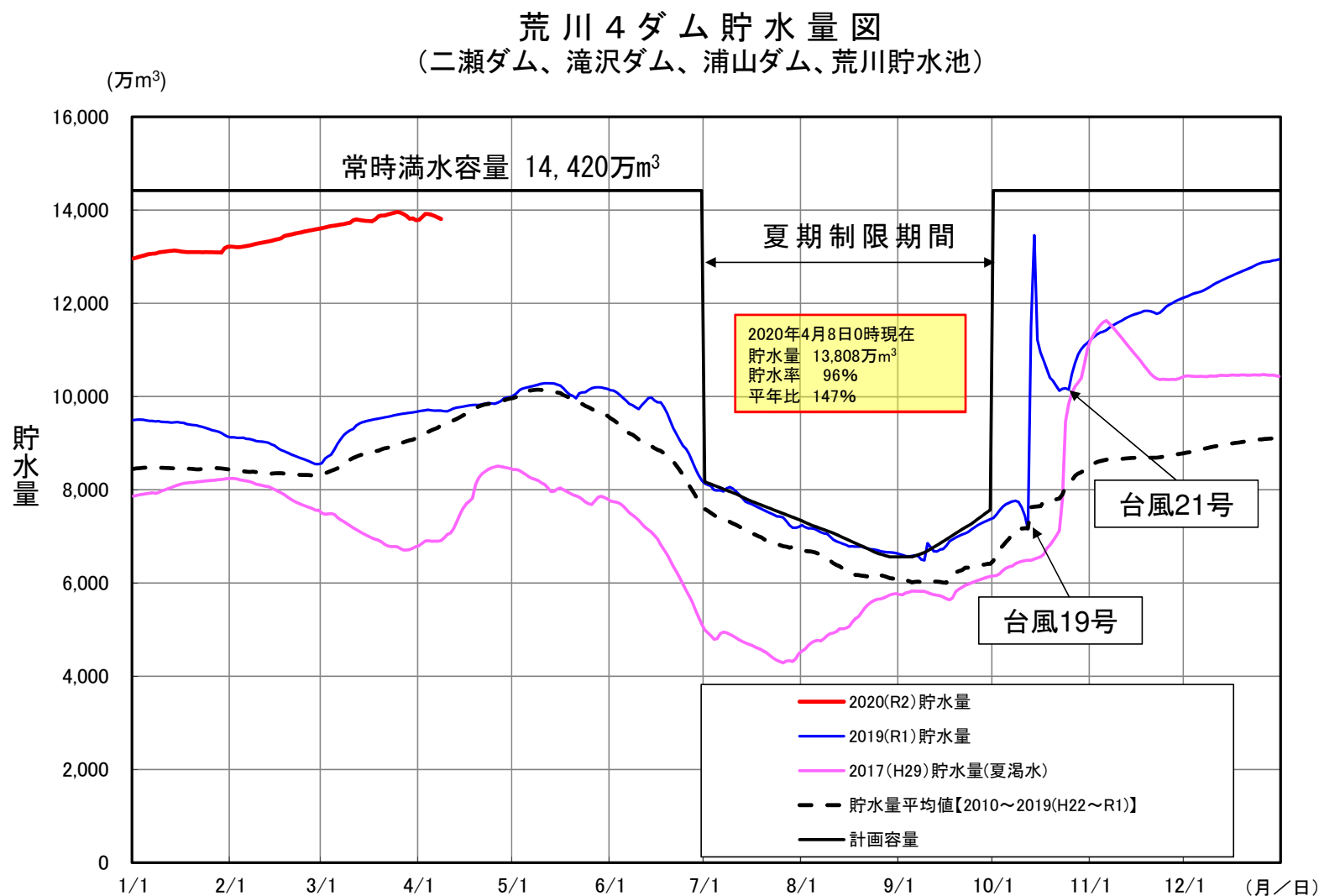


※2020(R2)貯水量は、3月11日からハッ場ダムの貯水量を反映させた貯水量。

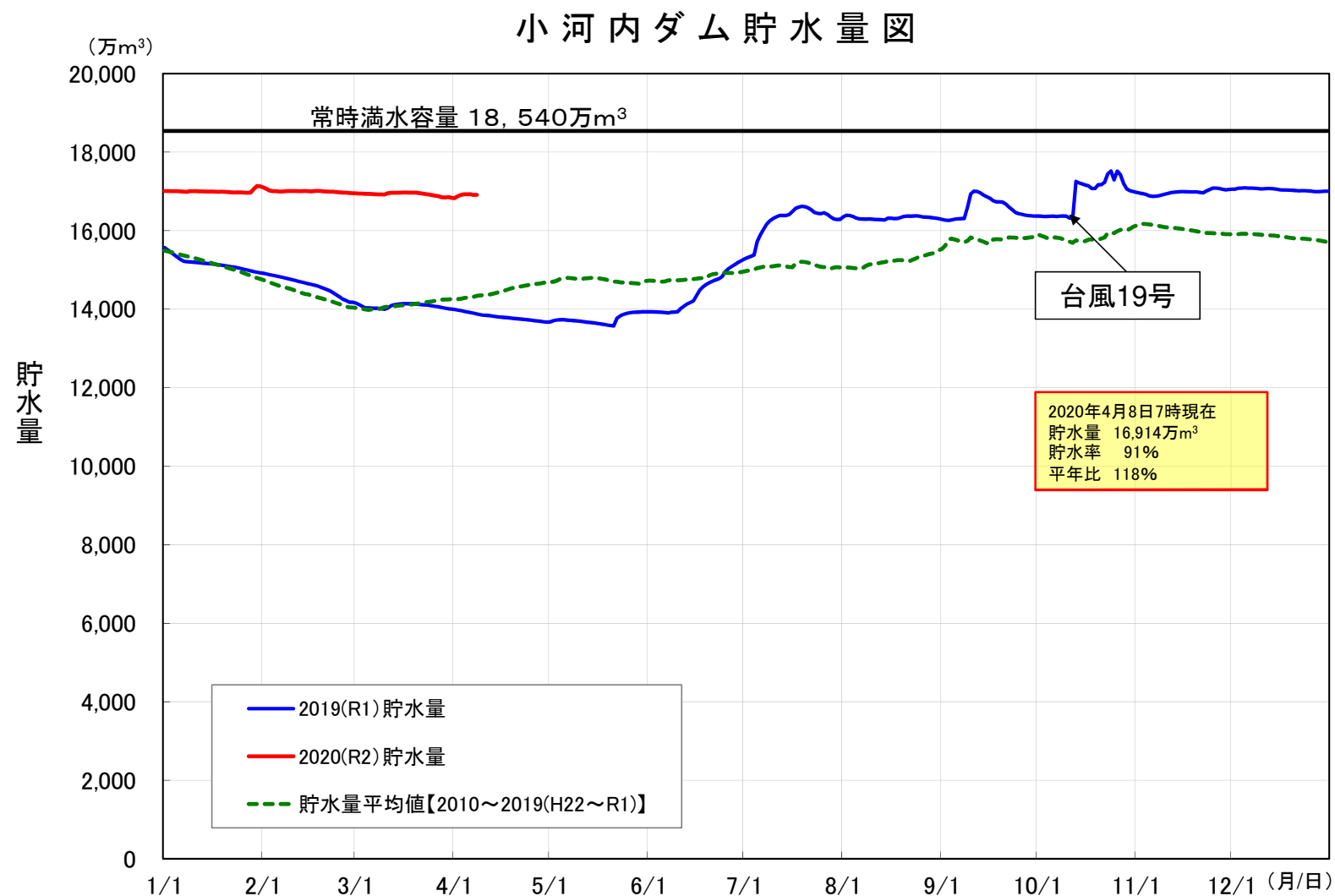
2019年10月の令和元年東日本台風(台風19号)等の出水後の貯留により、平均値を大きく上回る貯水量で推移し、4月8日0時現在の鬼怒川上流4ダムの合計貯水量は、2億4,992万 m^3 、貯水率99%(平均値の108%)となっており、4ダム体制となった2013年(平成25年)以降で最大の貯水量となっております。



2019年10月の令和元年東日本台風(台風19号)等の出水後の貯留により、4月8日0時現在の荒川4ダムの合計貯水量は、1億3,808万 m^3 、貯水率96%(平均値の147%)となっており、4ダム体制となった2008年(平成20年)以降で最大の貯水量となっております。

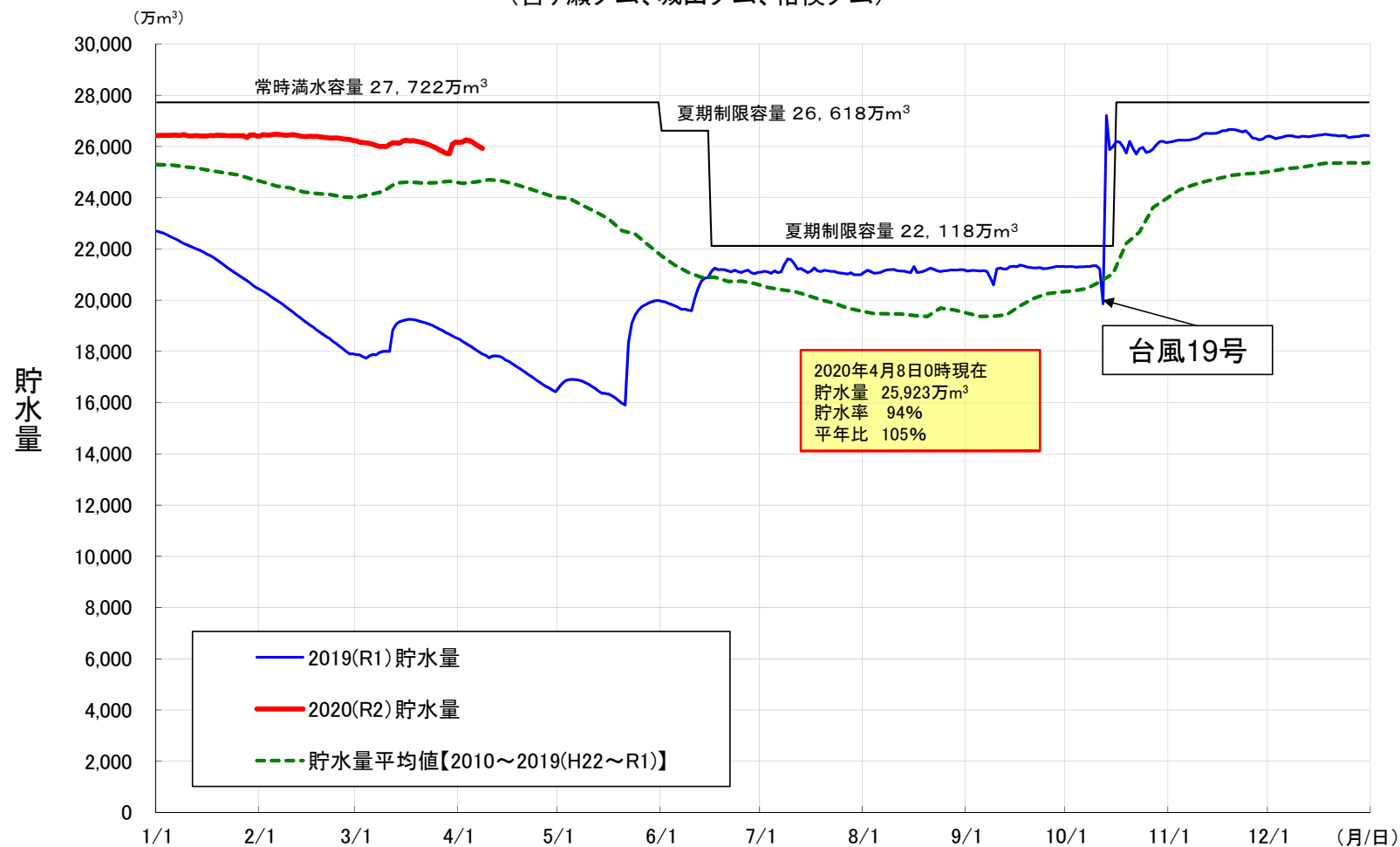


2019年夏以降、平均値を上回る貯水量で推移し、4月8日7時現在の小河内ダムの貯水量は、1億6,914万 m^3 、貯水率91%(平均値の118%)となっております。

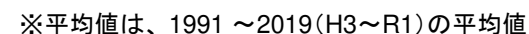


2019年10月の令和元年東日本台風(台風19号)の出水後の貯留により、平均値を上回る貯水量で推移し、4月8日0時現在の相模川3ダムの貯水量は、2億5,923万 m^3 、貯水率94%(平均値の105%)となっております。

相模川3ダム貯水量図
(宮ヶ瀬ダム、城山ダム、相模ダム)



利根川上流の積雪の状況



※平均値は、1954～2019(S29～R1)の平均値

——平均值

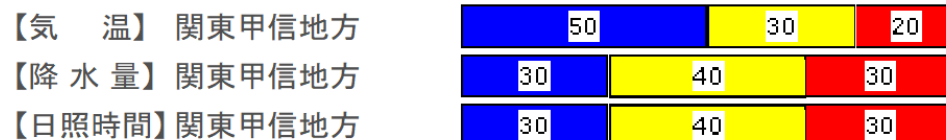
2020年4月9日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(4月11日から5月10日までの天候見通し)によると、向こう1か月の気温は「低い」の確率が50%、降水量は「平年並」の確率が40%となっています。

また、3月25日気象庁発表の3か月予報(4月から6月までの天候見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」及び「平年並」の確率が40%、降水量は「平年並」の確率が40%となっています。

気象の見通し(気象庁)

○1か月予報(4月9日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

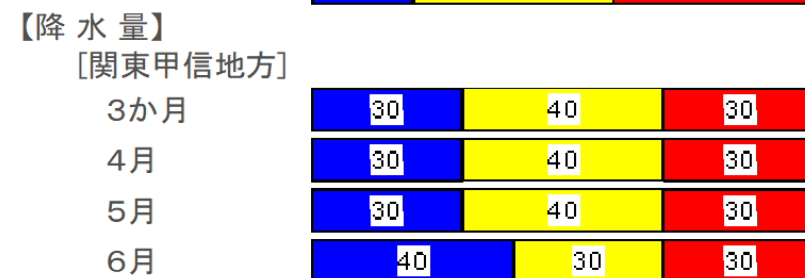
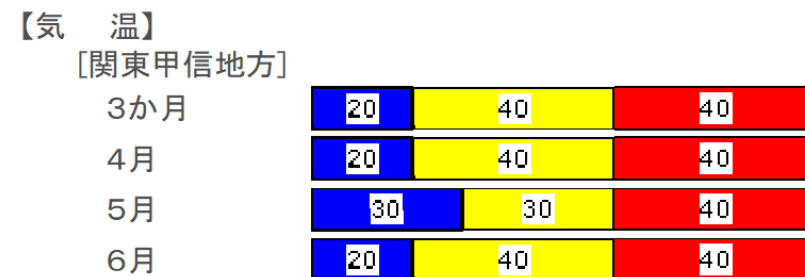
<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

○3か月予報(3月25日発表)

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

喝水対応行動計画進捗状況報告

2020年4月13日

東京2020オリンピック・パラリンピック喝水対策協議会

協議会構成員

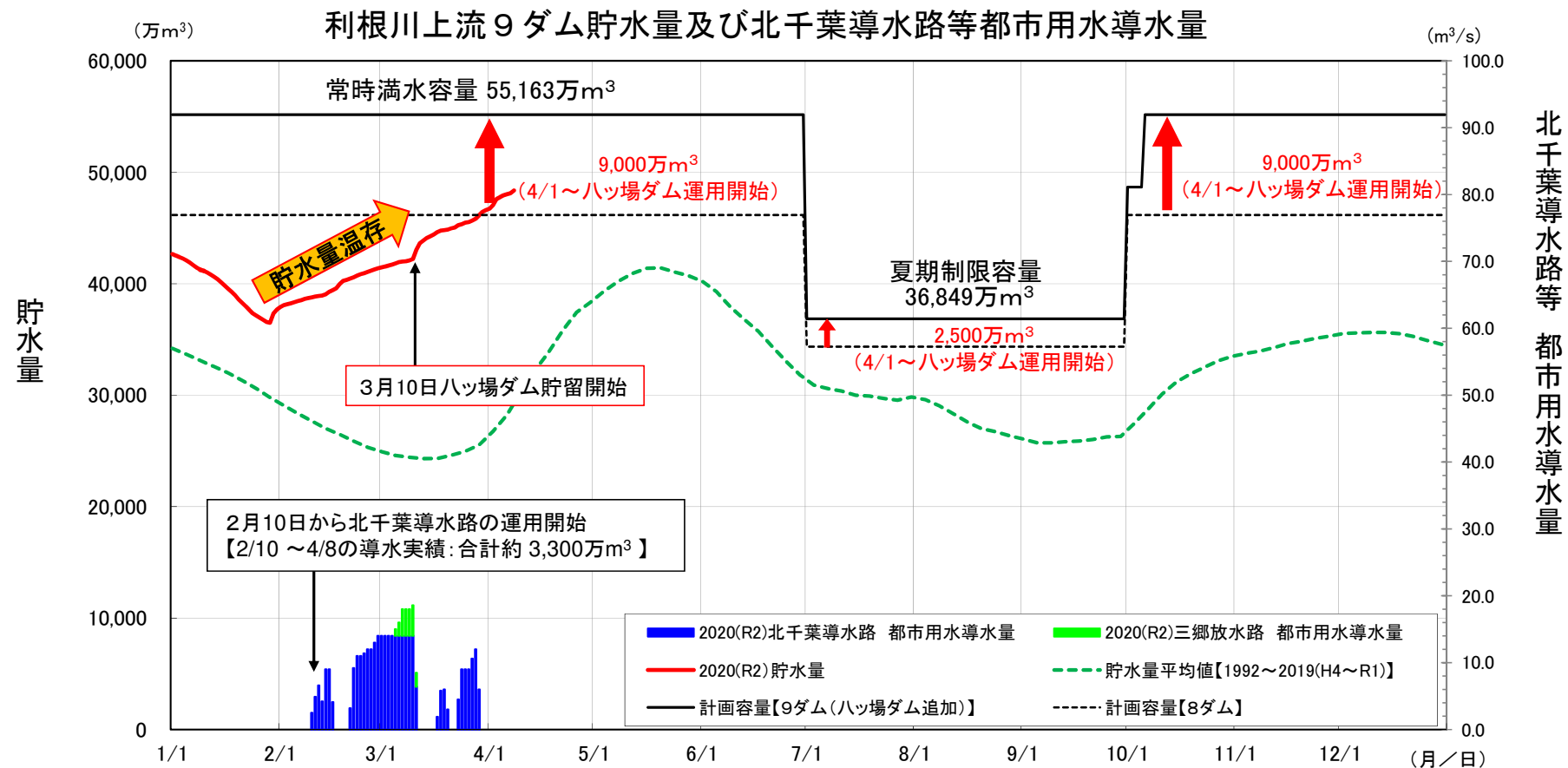
国土交通省関東地方整備局・経済産業省関東経済産業局・農林水産省関東農政局・（独）水資源機構
東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県・茨城県・群馬県・栃木県

■ハッ場ダム完成・運用開始【水資源の確保対策】②

- ハッ場ダムは、**3月10日から貯留を開始**し、4月1日以降は、本格的な運用を開始しています。

■北千葉導水路、利根川連絡水路、三郷放水路の下流利水施設の運用強化【水資源の確保対策】③

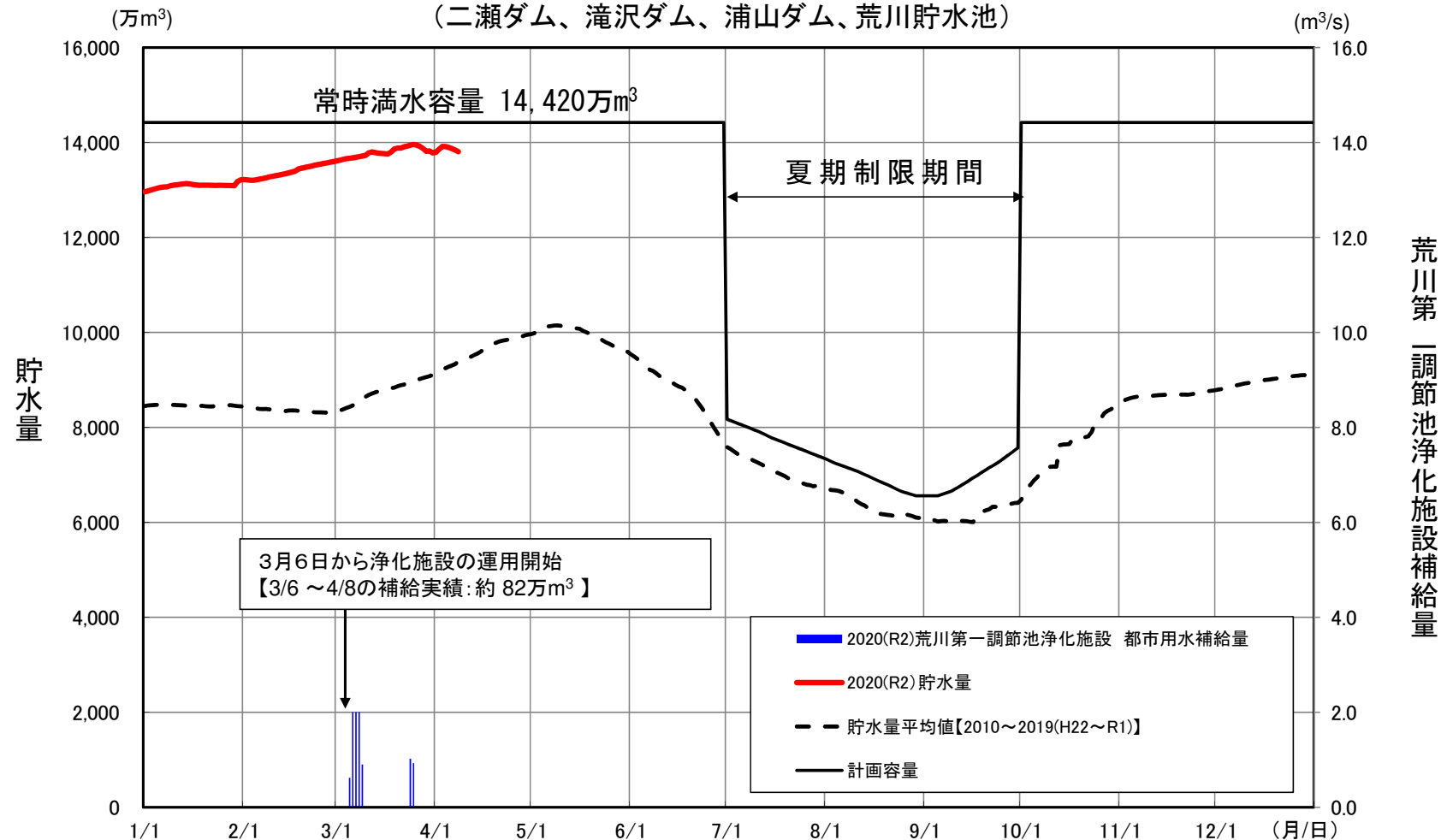
- 今冬の利根川上流域の積雪深が平年以下となっていることより、ダムの貯水量を温存するため、ダムの補給量を1月下旬から段階的に減量するとともに、**2月10日より北千葉導水路の積極的な運用を開始**しました。
- 引き続き、関係機関の協力のもと、治水行動計画を適切に実行し、ダム群の貯水量の温存に努めます。



※2020(R2)貯水量は、3月11日からハッ場ダムの貯水量を反映させた貯水量。

■荒川水利用高度化施設の運用強化

- 東京都及び埼玉県の水道用水を取水している秋ヶ瀬取水堰地点において、3月上旬から河川流量が減少したことから、荒川ダム群の貯水量を温存するため、**3月6日から荒川第一調節池浄化施設の運用を開始**しました。
- 引き続き、関係機関の協力のもと、治水行動計画を適切に実行し、ダム群の貯水量の温存に努めます。

荒川4ダム貯水量及び荒川第一調節池浄化施設補給量
(二瀬ダム、滝沢ダム、浦山ダム、荒川貯水池)

■ 渡良瀬貯水池における池干し(以下「干し上げ」)時期の変更

- 「湧水対応行動計画」では3月上旬に「干し上げ」を終える予定でしたが、好天が続いた結果、約2週間早い2月16日に「干し上げ」を終えることができました。
- 例年よりも**約1ヶ月半早く、2月17日から渡良瀬貯水池の貯留を開始しました。**
- 引き続き、利水容量への貯留に努めます。



渡良瀬貯水池

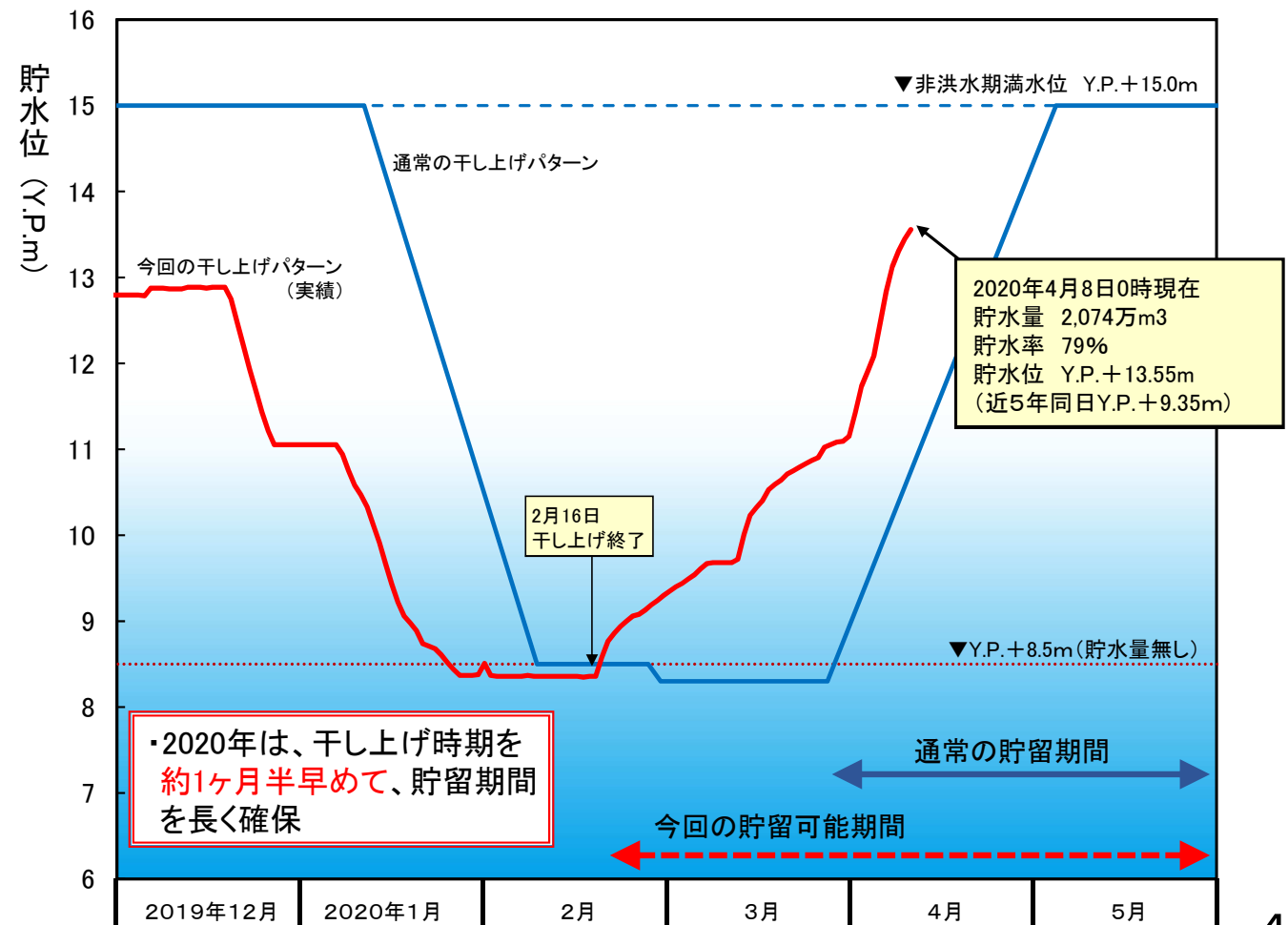
渡良瀬貯水池

【干し上げの目的】
渡良瀬貯水池の水は、首都圏の水道などに利用されています。水道原水のカビ臭抑制を目的として「干し上げ」を実施しています。



2020年2月13日「干し上げ」の状況

干し上げ時期の変更による水資源の確保状況(4月8日0時点)



渇水対応行動計画改定

2020年4月13日

東京2020オリンピック・パラリンピック渇水対策協議会

協議会構成員

国土交通省関東地方整備局・経済産業省関東経済産業局・農林水産省関東農政局・（独）水資源機構
東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県・茨城県・群馬県・栃木県

■治水対応行動計画を改定する目的

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が来年夏に延期されることになったが、首都圏に水を安定的に供給することは、引き続き重要である。
- ・2019-2020年冬季は、記録的な暖冬・少雪のため、今後の気象条件によっては、水需要が増加する時期に水利用に影響が生じる恐れがある。



水の安定供給のための治水対応行動計画の「体制」、「対策」を拡充・強化し、治水への備えに万全を期す

■治水対応行動計画(2019.8.26)の進捗状況

○「水資源の確保対策」については、利根川・荒川水系等において、大会までに実施・準備する12の対策は、全て対応開始。

■治水対応行動計画の主な改定内容

○利根川・荒川水系等において、3対策(武蔵水路等の新たな運用、既存施設の徹底活用等)を新たに追加。

○洪水期のダムの弾力的管理は、「ハッ場ダム」、「渡良瀬貯水池」を追加し、計11ダムで実施。

○「継続的な確保対策」について、「フェーズⅢ」の水不足の段階となった場合には、外国人観光客等に対して、外国語で節水を広報するよう努める。

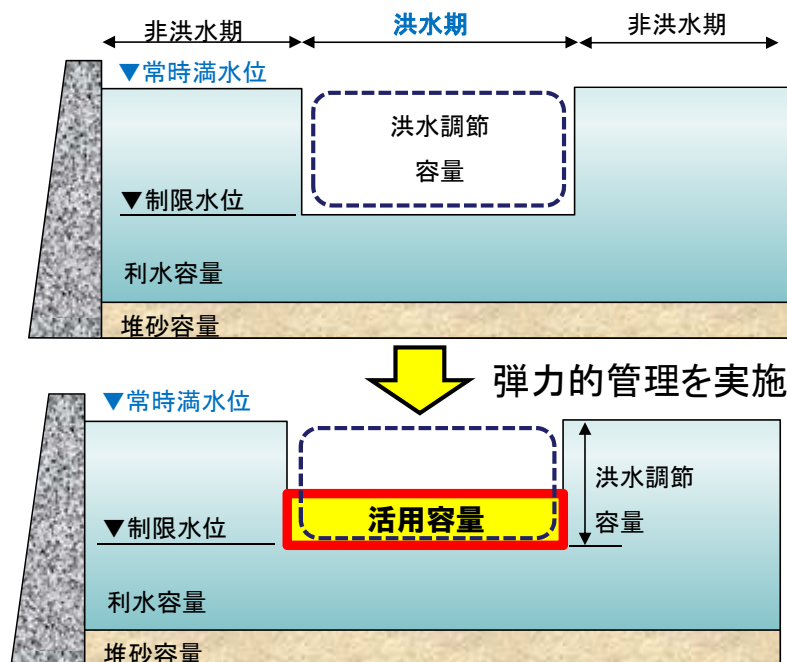
- ・引き続き、関係機関の連携・協力のもと、「治水行動計画」を適切に実行し、ダム群の貯水量の温存に努め、水の安定的な供給に万全を期す。
- ・なお、東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、改定後の本行動計画に基づき適切に対応し、実施状況を確認しつつ必要に応じて見直しを行うものとする。

		大会までに実施・準備 する対策	大会期間中に水不足の懸念または発生した場合に実施する対策			
フェーズ		フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ	フェーズⅣ	フェーズⅤ
水資源の状況		大会までに実施・準備 する段階	水不足が予見され る段階	水不足の段階	深刻な 水不足の段階	危機的な 水不足の段階
水資源 の確保 対策	広域的 な連携	協議会を活用した情報共有及び対策検討・調整				
		首都圏水資源統合運用本部の設置				
	利根川 ・荒川	洪水期のダムの弾力的管理の準備	洪水期のダムの弾力的管理・活用容量の貯留水の利用			
		ハッ場ダムの完成・運用開始				
		北千葉導水路、利根川連絡水路等の下流利水施設の運用強化				
		荒川水利用高度化施設の運用強化				
		武蔵水路等の新たな運用				
		既存施設の徹底活用				
		渡良瀬貯水池における干し上げ時期 の変更				
		工事制限水位を伴うダムの維持修繕 工事の調整(工事の後倒し)				ダムの用途外容量の活用に 関する要請(矢木沢ダム)
	多摩川	工事制限水位を伴うダムの維持修繕 工事の調整(工事の後倒し)				
		貯水量の確保に努めた原水運用	渇水状況に応じ、原水連絡管を活用して多摩川水系の原水を運用			
		人工降雨装置の試運転	渇水状況に応じて人工降雨装置を稼働			
	相模川	工事制限水位を伴うダムの維持修繕 工事の調整(工事の後倒し)				
		洪水期のダムの弾力的管理の準備	洪水期のダムの弾力的管理・活用容量の貯留水の利用			
		原水導水管を活用した相模川水系・酒匂川水系の連携を実施				

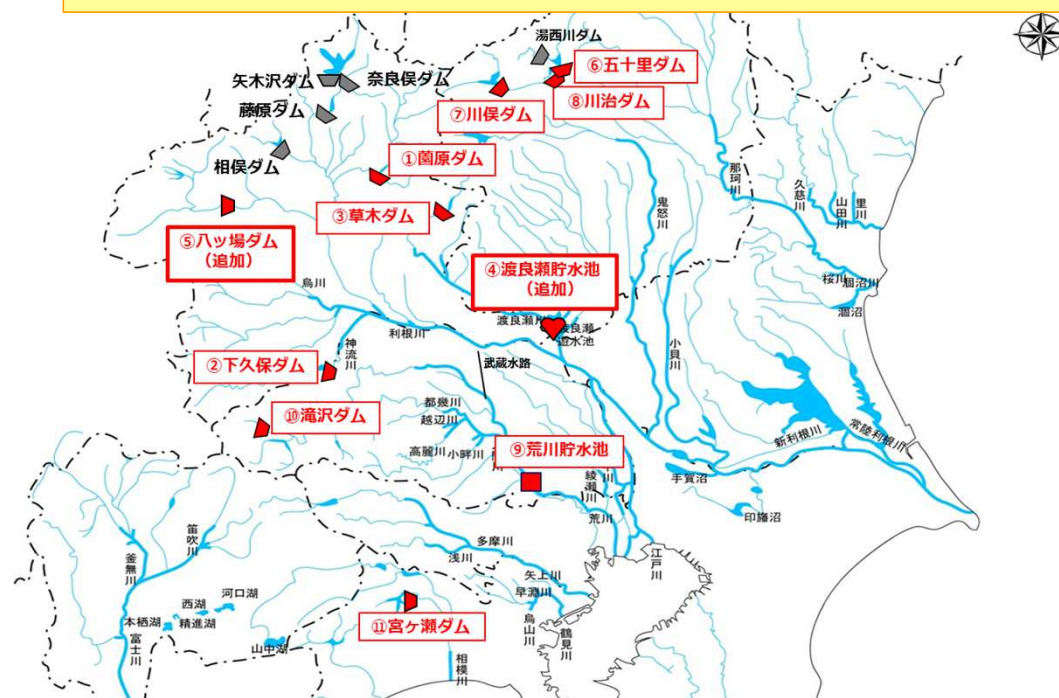
■洪水期におけるダムの弾力的管理

- 「湧水対応行動計画(2019年8月26日)」では、計9ダムを弾力的管理の対象としていましたが、**新たにハッ場ダムの完成、渡良瀬貯水池の施設管理体制の見直しにより、計11ダム**で弾力的管理を実施します。
- 弾力的管理によって、洪水調節に支障をきたさない範囲で「活用容量」に貯留した水を、利水補給で活用します。

ダムの弾力的管理（イメージ）



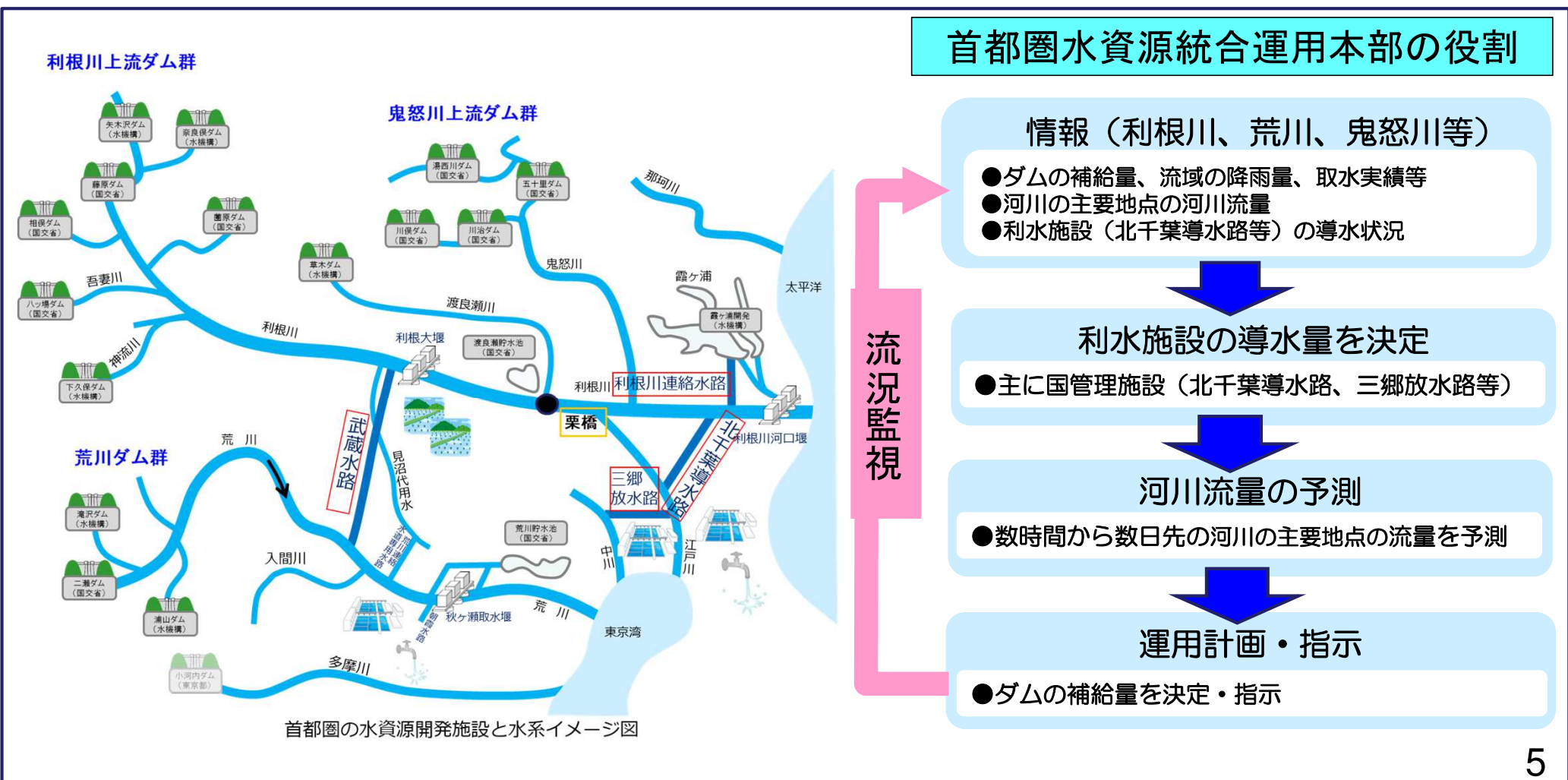
ダムの弾力的管理 対象ダム位置図 (2020年3月27日時点)



番号	1	2	3	4	5	6	7	8	利根川 計	9	10	荒川 計	11	全水系 合計
水系	利根川	利根川	利根川	利根川	利根川	利根川	利根川	利根川		荒川	荒川		相模川	
ダム名	園原ダム	下久保ダム	草木ダム	渡良瀬貯水池	ハッ場ダム	五十里ダム	川俣ダム	川治ダム		荒川貯水池	滝沢ダム		宮ヶ瀬ダム	
【改定前】弾力的管理 活用容量 (万m ³)	180	110	100	-	-	194	518	328	1,430	99	28	127	410	1,967
【改定後】弾力的管理 活用容量 (万m ³)	180	110	100	173	360	194	518	328	1,963	99	28	127	410	2,500

※渡良瀬貯水池は、手続き中。

- 利根川上流域の少雪を踏まえ、利根川上流ダム群の貯水量を温存することを目的に、関東地方整備局では、首都圏水資源統合運用本部を設置します。
- 2020年には、武蔵水路等の新たな運用、北千葉導水路等の下流施設による導水量、鬼怒川・小貝川から流れる水量等を統合的に管理することで、効率的な施設の運用が可能となり、ダム貯水量の温存を目指します。



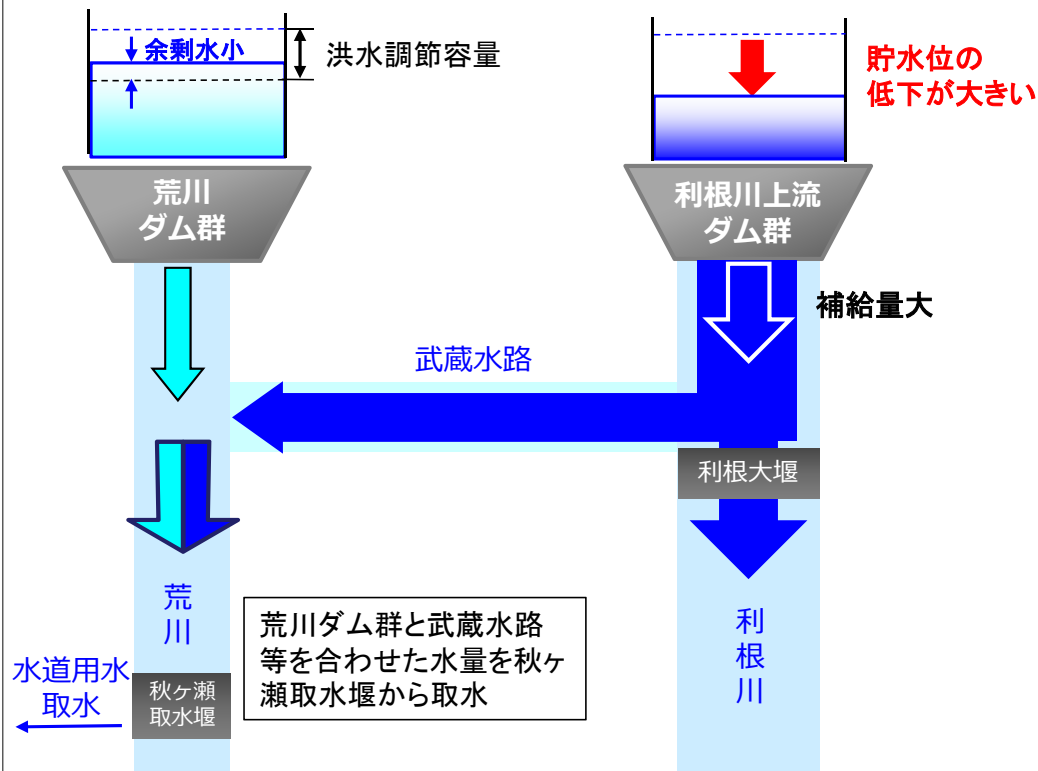
■武蔵水路等の新たな運用

- 利根川上流域の少雪を踏まえ、利根川上流ダム群の貯水量が減少した場合は、**荒川の余剰水※を武蔵水路の通水量の一部に振り替える**ことで、利根川上流ダム群の補給量を抑制し、ダム貯水量の温存を目指します。

※7月の洪水期に向けて洪水調節容量を確保するための放流など、荒川に継続して余剰水が多い場合を想定。

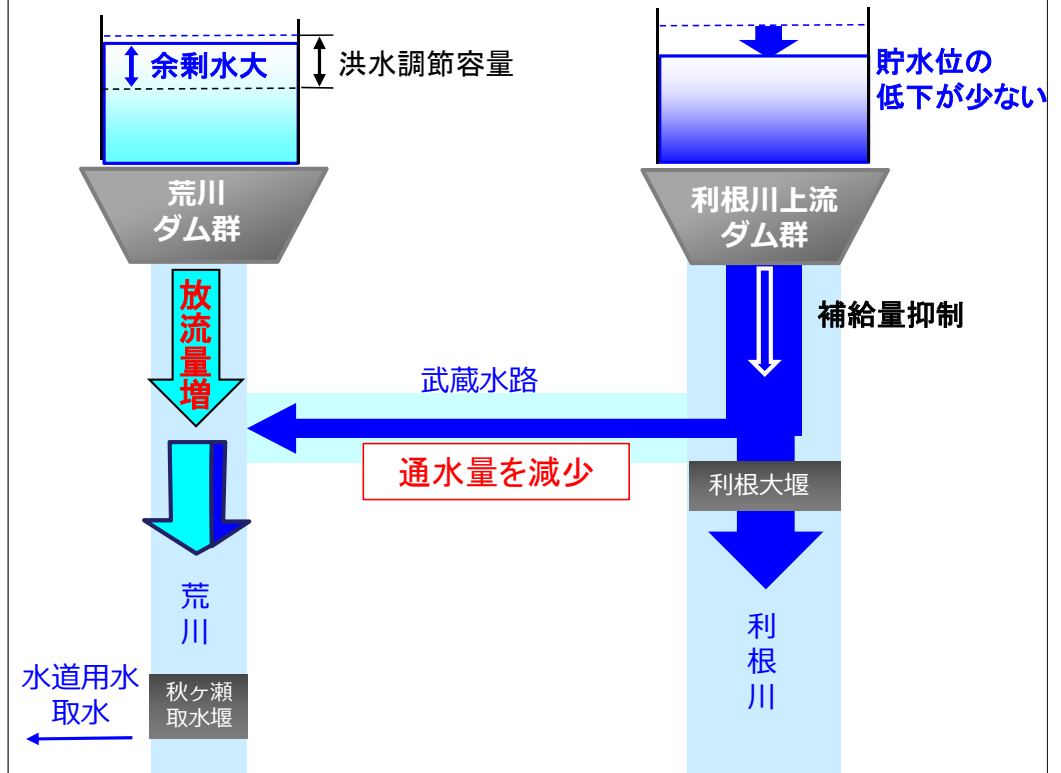
武蔵水路運用(流量調整)「なし」

・利根川上流ダム群の補給量が多くなり、**貯水量が減少**



武蔵水路運用(流量調整)「あり」

・武蔵水路の通水量を減少させ、利根川上流ダム群の補給量を抑制し、**貯水量を温存**



■既存施設の徹底活用

- 利根川上流域の少雪を踏まえ、野田導水機場の浄化用水導水のための既存ポンプを活用します。
- 既存のポンプを常時稼働し、利根川の水を利根運河を通して江戸川へ導水することで、ダム補給量を抑制し、ダム貯水量の温存を目指します。

※ダム群の貯水量温存のイメージは、【水資源の確保対策】③(北千葉導水路、利根川連絡水路等の下流利水施設の運用強化)を参照。

